

- 昭和 59.01.30 70周年記念事業を進めるにあたり、六華商事・六華銀行の残余財産も検討することに決定
- 59.07.31 最後の担当者、保坂先生退職に当たり、残余財産の用途について覚書を残す
(旧職員 保坂秀一・村田長英 同窓会長 石原慶治・樫野利男)
(7月現在 10,874,400円になっていた)
- 60.10.10 三条商業高校が記念事業として合同部室を建設したことを聞き及び、本校でも検討に入る
- 60.11.24 三条商業高校の合同部室を視察 (樫野・中村・外山・大滝)
※教育庁へ合同部室の建設について打診
- 60.11.26 残余財産の処分は商業科に一任され、商業科内に小委員会設置 (橋澤・小林・大滝・高橋)
- 60.02 教育庁より合同部室の建設は不可能との回答 (寄付採納は受けられない)
- 60.10.16 70周年記念式典 この間小委員会で検討を重ねたが結論は出なかった
- 62.04.22 校地隣接東側に宅地造成が計画されたので、土地を購入し、長岡商業高校の兜城会館に倣い、将来会館を建設する案をまとめる
- 62.10 公益社団法人設立の検討に入る 公益社団法人の定款(案)を作成 (小林・大滝)
- 62.11.27 長岡商業高校の兜城会館を視察 (小林・大滝)
- 62.12 教育庁と公益社団法人設立について協議に入る
※昭和 49.12.27 付 総理府・法務省等による都道府県知事宛通知により
「同窓会・後援会・特定団体等の構成員のみを対象とする福利厚生・相互救済などを目的とする法人の設立は許可できない」という通知から、特定の学校生徒を対象とする公益社団法人は公益性の観点から設立できないとの回答あり
※そこで、広く上越地域高等学校の教育活動の振興・助成を図り、地域の産業・文化・体育の発展と青少年の育成に寄与するという目的を設定して公益社団法人の設立の準備に入る
- 63.01 教育庁総務課から照会があり、資金は定期 1,180 万円、株式 15,163 株、土地 150 坪確保 建物は 1～2 年後に完成させると回答した
※審査資料として
1. 事業予算 2. 事業計画 3. 今後 2～3 年間の収支見込予算書
4. 理事名 5. 寄付目録 を提出した
※事業計画の中で当初の教育振興、産業・文化・体育の発展、青少年の育成に寄与するという目的に上越地域の高校生のための育英事業を加えた

※高田商業高校第5回卒業生の丸山保（県会議員）氏 公益社団法人設立
認可について教育庁総務課と交渉

63.03.29 公益社団法人設立の件で教育庁総務課へ出向く（村田・佐藤・小林・大滝）
※当時、校地の南端にあった体育クラブ室（合宿所）の改善としてなら建物の寄付採納を受けるとの可能性判明

63.04.02 同窓会側委員を交えた70周年記念事業実行委員会に於いて、体育クラブ室の建設を決める

63.04.04 新潟中央高校のセミナーハウスを視察（佐藤・小林・大滝）

63.04 校内で体育・文化部代表を加えて会館建設実行委員会として拡大
（丹呉・佐藤・樋口・宮崎・竹内・小林・清水・滝川・大滝・安部・吉沢の11名）
※当初計画した会館ではないが、六華商事・六華銀行の残余財産も「将来内部に商事会社を設立する」の条件で建設資金を充てることにした（会社の創立費として200万円を残す）
※資金計画の中で、公益社団法人の公益性の検討で育英制度を検討した事、並びに奨学基金の東京電力の株式の現状に鑑み、売却して建設資金に充てる案の検討に入る）

63.05 建設位置について教育庁と協議に入る

63.06 丹呉校長が奨学基金を寄贈された佐藤富一郎氏夫人 佐藤ソヨ様（当時千葉県柏市在住）宅へ上京し、「奨学金の制度は未永く残る形で資金を建設資金に使わせてもらおう」という了解を頂いた（佐藤氏実家の甥の佐藤喜和治君の口添えもあった） 奨学基金として、3,000万円を残す

63.07 建設場所については、丸山保氏の尽力により現在地での建設が決まる

63.07 基本設計ができる（中央設計株式会社 設計料320万円）

63.08 最終設計が決まる
※資金計画・・・残余財産 10,215,400円 株式売却 61,717,961円
利息 626,639円 収入計 72,560,000円

63.10.21 落札：丸運建設株式会社 6,600万円

63.10.28 地鎮祭挙行

63.11.01 着工

63.12 備品・消耗品等購入計画 160万円（当初の運営資金として200万円を残す）

平成 01.01.13 内装の基本設計決定

01.03.20 会館の利用規定を制定（長野県の県立高校のセミナーハウスの規定参考）

01.03.28 竣工検査

01.03.31 竣工

01.04.26 落成式挙行 故佐藤富一郎夫人 佐藤ソヨ様出席（千葉県柏市東台本町6-17）

教育庁との間は、体育クラブ室の改築と言うことで事業が進められたので、体育クラブ室（合宿所）落成式と銘打って行われた

しかし、資金的には六華商事・六華銀行の残余財産と奨学基金を「佐藤さんの名前が末永く残る形で教育活動に使わせてもらう」という了解を頂いた経緯からして、「佐藤記念六華会館」と名付けた

- 15.10.30 会館入り口に、「佐藤記念六華会館」という看板を掲げた（材料提供：鈴木、製作：小林、費用負担：同窓会、企画：大滝）

